

## 興味深い記念日の数々 ―「海苔ウィーク」に思いを寄せて―

### わが国における記念日の数々

私たちは日頃、国の祝日や個人の誕生日といった特別な日でも無い限り、日々何気なく過ごしておりますが、ネット検索してみると我が国においては1年365日、毎日が何等かの記念日と定められていることが分かります。例えば5月1日は何の日かとウィキペディア「日本の記念日一覧」で検索すれば「メーデー」「日本赤十字社創立記念日」「青春の日」「扇の日」「スズランの日」「サラウンドの日」「語彙の日」と言った具合に、この日だけで7つもの記念日が列挙されます。今回は大変興味深い記念日の数々を知ることと併せ、改めて「海苔の日」を始めとする海苔の記念日と「海苔ウィーク」について再考してみたいと思います。

(一社)日本記念日協会のHPには『1年365日、それぞれの日にさまざまな記念日があります。それは人々がカレンダーというものを生み出してからの歴史であり、文化のひとつコマひとつコマです。日本では「ひな祭り」「七夕」など伝統的な行事として定着しているものから、「〇〇の日」「〇〇記念日」という業界や企業がそのPR効果を目的に制定したものまで、およそ2,400種類以上もの記念日があり、年々その数は増え続けています。・・・』と記されており、前記「日本の記念日一覧」を参照しても1月1日の「鉄腕アトムの日」他から12月31日の「シンデレラデー」他まで約950件近くの記念日を数えることが出来ます。

それらの記念日は特別な由来があるもの以外は語呂合わせによる制定が多いとされており、例記すれば1月5日「いちごの日」、3月9日「ありがとうの日」、10月2日「豆腐の日」といった具合ですが、さらに話題性を高めるために面白そうな記念日として、男女の出会いから別れに到るまでを順追いで記してみますと、10月30日の「初恋の日」から12月21日「遠距離恋愛の日」を経て、1月27日「求婚の日」を迎え、そして11月21日の「いい夫婦の日」に結ばれ、年月を経て熟年期に達した2月29日に「円満離婚の日」を迎えるという記念日のストーリーが完成します。

それぞれ記念日制定の由来や背景は、その該当日をネット検索すれば詳細に知ることが出来ますが、ここでは話題提供のため簡略に記しますと、「初恋の日(10月30日)」は1896年10月30日に作家の島崎藤村が「文学界」46号「こひぐさ」の一編として初恋の詩を発表したことを記念する日・・・と由緒ある由来が明らかにされますが、「遠距離恋愛の日(12月21日)」に至っては遠距離恋愛中の恋人同士がクリスマス前に会ってお互いの愛を確かめ合う日とされ、さらに「1221」の両側の1が1人を、中の2が近づいた2人(離れた場所にいる2人が中央で出会う)を表しているそうで、数字の配列にまで意味合いを持たせる凝りようです。

また、「求婚の日(1月27日)」は明治16年のこの日、中尾勝三郎と言う人物が生涯の伴侶を求め

るため新聞に求婚広告を出し、これが日本の新聞紙史上初めての求婚広告となったことを記念して制定されたとの説明がなされており、大いに時代背景を感じさせますが、近年、とみに話題となっております「いい夫婦の日(11月22日)」に関しては申すまでもなく語呂合わせによるもので、この日に入籍する有名人も数多くいるとのことで、このところ大変認知度の高い記念日の一つとなっております。

そして「円満離婚の日(2月29日)」となるわけですが、この記念日を(一社)日本記念日協会に申請したのは離婚式プランナーの寺井広樹氏だそうで、氏の談話によれば「円満離婚って、数ある離婚の中でも珍しいケースなのですが、ですので4年に一度くらいが丁度いいのかな・・・と考えました(笑)」とあり、何とも含蓄のある由来を持った記念日ではないでしょうか。因みに記念日の最も多い月は11(いい)〇〇の日との語呂合わせから11月とされております。

#### 水産物に関係した数々の記念日

かように興味深い記念日の数々ですが、次は身近な水産物に関する記念日に限定して大阪市水産物卸協同組合 HP の「魚の記念日」を参照し、年初めから列記してみますと、1月10日「明太子の日」、2月3日(節分)「いわしの頭も信心から」、2月6日「海苔の日」、2月9日「フクの日」、2月14日「煮干の日」、3月3日(ひな祭り)「潮干狩り・ハマグリ、アサリ」、3月13日「漁業法規記念日」、3月20日「カツオの日」、3月24日「連子鯛の日」、4月13日「水産デー」、4月の第3日曜日「モズクの日」、4月23日「シジミの日」、5月4日「しらすの日」、5月5日「ワカメの日」、6月1日「鮎の日」、6月22日「かにの日」、7月2日(半夏生)「解毒作用のある蛸の日」、7月5日「穴子の日」、7月7日(七夕)「笹かまの日」、7月の第3日曜日「海の日」、7月土用の日「土用のうなぎ」、8月3日「鱧(ハモ)の日」、8月8日「タコの日」、9月4日「くじらの日」、9月15日「ひじきの日」、9月の第3日曜日(敬老の日)「海老の日」、10月4日「イワシの日」、10月10日「マグロの日」「魚(ト)の日」「缶詰の日」、10月18日「冷凍食品の日」、10月19日「いか塩辛の日」、11月11日「鮭の日」、11月15日「カマボコの日」「コンブの日」、11月23日「珍味の日」「牡蠣の日」「あんこうの日」、11月24日「鰹節の日」、11月29日「いいフグの日」、12月20日「ぶりの日」、毎月10日「魚を食べる日」、毎月24日「カツオ節の日」、毎月27日「ツナの日」とあり、それぞれ企業や業界団体等が自ら制定したり、日本記念日協会の承認を得て制定しておりますが、こうして列記してみると、筆者にも折々行われる業界のキャンペーンやロゴマークなどにより特定された幾つかの水産物の記念日が即座に思い浮かんでまいります。

なお、こうした各水産物の記念日に関する由来など詳細については大阪市水産物卸協同組合 HP の「魚の記念日」をご参照願います。

## 海苔の記念日

また、大阪市水産物卸協同組合 HP の「魚の記念日」には掲載されていませんが、海苔の記念日としては上記の「2月6日海苔の日」(全国海苔貝類漁業協同組合連合会)の他に、関西地方の古くからの習慣に始まり、その後コンビニ、スーパーでの販売を中心に「恵方巻き(えほうまき)」として全国普及する事になる「2月3日節分の日巻きずし丸かぶり」(関東風にいうと海苔巻き丸かじり-ただし太巻きで切らずに1本で食べる)があります(海苔の日と恵方巻きの詳細は次節記載)。



さらに全国の海苔生産県の漁業協同組合連合会(県漁連)で組織する全国漁連のり事業推進協議会(事務局:全国漁業協同組合連合会)は、近年必要性が叫ばれている家族のコミュニケーションと子供たちの食育の手段としての手巻き寿司(家族みんなで作る)に注目して「毎週第3土曜日は家族ふれあい手巻き寿司の日」を制定して各種キャンペーンを展開し、一方、全国の流通関係団体で組織する海苔で健康推進委員会(事務局:東京都港区元赤坂)は、毎月ではなく毎日でもという事で更に一歩進めて「手まきごはん」のキャンペーンを展開しています(手巻き寿司の日は「手巻き寿司を食べよう」のHPを、手まきごはんは「海苔 JAPAN」のHPをご参照下さい)。

海苔ウィークに思いを寄せて

さて、ここで今回本題とする「海苔ウィーク」に話題を転じることと致します。「海苔ウィーク」は2月3日「節分の日」(恵方巻きの日)と2月6日「海苔の日」を含む1週間の事を言います。

まず「海苔の日」ですが、前記大阪市水産物卸協同組合 HP の「魚の記念日」に記された2月6日「海苔の日」によれば、大宝律令が制定され、海苔が年貢になったのが大宝2年1月1日であり、これは現代の西暦で702年2月6日にあたることから、2月6日を海苔の日に制定したとあり、これを制定した全国海苔貝類漁業協同組合連合会(全海苔連)HP にも全国海苔漁民の総意として1966年(昭和41年)「海苔の日」を2月6日と定め、以来毎年記念行事を実施しておりますと記されており、事実、翌1967年(昭和42年)2月6日に第1回の記念行事が行われ、当時の東京・永田町のヒルトン・ホテル(現ザ・キャピトルホテル東急)において盛大な記念祝賀会も開かれております。

筆者が勤務しておりました大日本水産会が発行しておりました当時の日本水産新聞によれば『2月6日は海苔の日です-と全海苔連(庄司 嘉会長)は同日、第1回の記念行事を行った。東京杉並の老人ホーム浴風園に、ノリを寄贈、おいしいノリを味わってもらおうとともに、盛り場にアドバルーンを上げ、団地に宣伝カーを繰り出し、午後2時から東京・永田町のヒルトン・ホテルでノリの日制定祝賀会を開いた。祝賀会にはノリ関係者が多数出席、まず庄司会長が「生産拡大とともに、消費の促進をはかり、価格の安定に結びつけなければならない」とノリの日制定の趣旨を説明し、「ノリは老化現象を防ぎ、利口になることから脳理(ノリ)の日と呼びたい」と挨拶すれば、川島前自民党副総裁も「外国へ必ずノリを土産に持っていき、説明を加え食べさせるようにしている。ノリの海外宣伝に一役買っていることになる。スカルノ大統領などはノリ巻きセンベイが好物だよ」と挨拶、拍手をあげ、好調なノリの日スタートであった。』と写真付きでその盛り上がりを伝えております。

そうして生まれた「海苔の日」が存在する一方で、例年、節分(2月3日)を迎えますと全国至る所において、スーパーなどの食品売り場(写真参照・恵方と賑わう恵方巻きの売り場)には恵方巻が陳列されますが、そのスペースも年を追うごとに拡張し、今や豆まきを凌ぐほどの風物詩と化しております。加えて恵方巻は海苔の太巻きですし、この期間だけでもかなりの本数が消費されるはずですので、使う海苔の枚数も相当な数になるのではないのでしょうか。

この恵方巻、その年の商売繁盛や無病息災などを歳徳神様にお願いするため、恵方(因みに今年南南東)を向いて黙々と太巻きを丸ごと一気に食べるのが習いと言うのですから、これほど海苔の消費拡大にとって有難い風習はありませんよネ!さらに昨今では「セレブ巻き」と称する1本1

万円のものや、松阪牛や伊勢海老などの高級食材を巻いた 1 万円超のものまで出現し、話題性にも事欠きませんので、この時節、海苔業界にとっては大いに宣伝効果を高めるチャンスと言えます。

顧みれば、「海苔の日」制定時に、当時の浅海増殖研究中央協議会殖田三郎会長(東京水産大学名誉教授・農学博士、水産植物学専攻、当時のノリ研究及びノリ生産指導の第一人者)が寄稿文の中で『「海苔の日」を定めるのは海苔を記念すると同時に大いに賞美宣伝することが狙いであろうと思います。賞美宣伝するだけならば宣伝に都合のよい時期[期日]を選べばよいわけですが、記念の意味があるので歴史的根拠も考慮に入れねばなるまいと存じます。(中略)海苔が实际的に年貢として徴収されだしたのは大宝 2 年です。大宝 2 年は、史学研究会編、日本史年表、和暦西暦対照表[陽暦換算]によると 702 年 2 月 6 日に始まっておりますから、此の日すなわち 2 月 6 日を「海苔の日」にしたら記念の意味をいかすとともに称美宣伝の時期としても適当ではあるまいかと思いますが如何でしょうか。』と記しております。

まさにこの意を受け、現在 2 月 3 日の節分「恵方巻き」と 2 月 6 日の「海苔の日」が含まれるその週を業界では海苔ウィークと称し、例年、全国各地において種々イベント、行事が行われているようですので、和食、寿司が世界的人気の追い風を受ける今日、海外にも視野を広げた国産海苔の消費拡大と先人らが制定し広めてきた記念日に感謝の意を込め、海苔に関する各団体のキャンペーンの進展を祈念するとともに、このウィークを益々盛り上げていただきたいと、種々記念日を検索しながら思うのです。

齋藤 壽典(さいとう・としのり)

一般財団法人海苔増殖振興会理事、一般財団法人農林水産奨励会理事、一般社団法人大日本水産会顧問、水産物・水産加工品輸出拡大協議会会長